

教科名	国語科	科目名	国語総合	単位数	4単位	対象	1年(全コース)
科目の分類	必履修科目		履修順序				
科目の目標	1. 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝えあう力を育てる。 2. 思考力を伸ばし、心情を豊かにする。 3. 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 4. 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。						
教科書	『高等学校 標準 国語総合』 (第一学習社)						
副教材	『最新国語便覧』 (浜島書店) 『基礎から学ぶ 解析古典文法』 (桐原書店)						
学習内容 (概要)	国語を的確に理解し適切に表現する能力を養うとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨く。また、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。古文漢文に関する基礎的な知識を習得する。						
学習の ポイント	1. 漢字や語句の読みと意味の理解及び文章の構成や読解の仕方を学ぶ。 2. 作者の考え方や登場人物の生き方に触れ、自分の意見を持つ。 3. 短歌・俳句等の鑑賞や創作の仕方を学ぶ。 4. 中国の故事成語を理解し、漢文訓読の基本を習得する						
到達目標	1. 随想、評論、小説を読み、内容を理解し味わうことができる。 2. 詩・短歌・俳句等を鑑賞し、創作することができる。 3. 古典の世界に触れ、古文漢文を理解することができる。						
評価の方法	・定期テストおよび実力テストの得点。 ・授業時の発表、ノート・プリント等の提出状況。 ・長期休暇中の課題の提出状況。 ・意見文、読書感想文等の作品の提出状況と完成度。 } を総合的に判断して評価する。						
学習展開〈年間指導計画の概要〉							
	単元または項目	学習のねらい		主な学習活動(教材等)			
一 学 期 前 半	授業ガイダンス	進度の説明・評価の仕方について等		・進度の説明・評価の仕方について板書やプリント等で説明			
	随想(一)	・随想の読み方を習得する。		「世界は謎に満ちている」(手塚治虫) 「体の声を聞く」(多田富雄)			
	評論(一)	・二項対立的な評論の読解方法を習得する。 ・幅広く柔軟な思考力を養う		「水の東西」(山崎正和) 「日本語万華鏡」(鈴木孝夫)			
	詩	・近代詩・現代詩に親しむ。 ・詩を読み味わう方法を学ぶ。		「道程」(高村光太郎) 「I was born」(吉野弘) 「二十億光年の孤独」(谷川俊太郎)			
	表現の実践	わかりやすい表現のための留意点を理解し、自らの考えを文章で伝える。 ・意見文を書くときの注意点、必要な材料の集め方、文章構成等について理解する。		「表現の実践⑧ 意見を述べる」 意見文を書く。 ・校内弁論大会に向けて自分の意見を文章化する力を養う。			

中間テスト			
一 学 期 後 半	古文入門	<ul style="list-style-type: none"> ・古文を学習する意義を知る ・古文と現代文の違いを理解する。 ・伝統的な言語文化への興味関心を広げ、古典を尊重し継承していく態度を育てる。 	「古文の学習」 「児のそら寝」 「三文にて歯二つ」 「古文を読むために1」 (歴史的仮名遣い・古文の特徴) 「古文を読むために2」 (口語訳の留意点・品詞)
	表現の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・校内弁論大会に向けて、自分の意見を効果的に発表する方法を学ぶ。 	「表現の実践②」スピーチをする」 ・人前で発表する際の留意点に注意し発表する ・人の発表を聞く際の留意点に注意し、聞く。
	小説(一)	<ul style="list-style-type: none"> ・短編小説を読み基本的な読解方法と鑑賞の仕方を習得する。 ・登場人物の性格・真理・行動を的確に読み取る。 ・すぐれた描写と効果的な表現を学び、想像力・感受性を豊にする。 	「羅生門」(芥川龍之介) 「とんかつ」(三浦哲郎)
	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・記録文の読み方を習得する 	「記録文を読むロボットとは何か」(石黒浩)
期末テスト			
二 学 期 前 半	短歌と俳句	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌の形式・表現方法・鑑賞方法を学ぶ。 	「清水へ」(与謝野晶子ほか)
	小説(二)	<ul style="list-style-type: none"> ・短編小説の面白さを味わい鑑賞力を高める。 ・作品にテーマを的確に捉え自らの問題として認識する。 	「出来事」(志賀直哉) 「卒業ホームラン」(重松清)
	漢文入門	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文を学習する意義を知る ・漢文を自国の文化に取り入れた先人の工夫を理解する。 ・漢文に親しみを持つ。漢文に親しみを持つ。 	「漢文の学習」 「訓読に親しむ(一)」(返り点・書き下し文) 「訓読に親しむ(二)」(助字・置き字) 「訓読に親しむ(三)」(再読文字)
	随想(二)	<ul style="list-style-type: none"> ・随想の読解方法を習得する ・平和やボランティアについて考えるきっかけとする。 	「黄色い花束」(黒柳徹子)
中間テスト			
二 学 期 後 半	評論(二)	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例から結論へと発展させる方法を把握し、文章読解力を養成する。 ・筆者の考え方に触れ、自己を見つめ直すきっかけとする 	「コミュニケーションは創造的に」(伊藤進) 「ものまね上手・創造上手の日本技術」 (石井威望)

二 学 期 後 半	古文に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔話としてなじみのある作品を読み、古文に親しむ。 ・ 適切な口語訳ができるようにする。 ・ 係り結びについて理解する ・ 用言の活用について理解する。 	「なよ竹のかぐや姫」 「絵仏師良秀」 「古文を読むために3」 (用言の活用、係り結びの法則 等)
	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『竹取物語』の求婚譚を読み、五つの難題の内容と貴公子達の行動、結果をまとめる 	「『竹取物語』の求婚譚を調べる
	故事成語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢文訓読の基本事項を確認する。 ・ 平易な文章を読み、漢文の内容を理解する。 	「五十歩百歩」 「矛盾」 「漁夫の利」
	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢和辞典・副教材『最新国語便覧』・図書館資料等を使い、故事成語の由来と意味を調べ、発表する。 	「故事成語の由来と意味を調べる」
期末テスト			
三 学 期	和歌と俳諧	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和歌の優れた表現に親しむ ・ 和歌の修辞技巧や各時代・各歌集の表現上の特色を理解する。 ・ 俳諧紀行文を読んで、自然・人間などに対する作者の思想や感情を読み取る。 	「万葉・古今・新古今」 「古典のしるべ」 「奥の細道」 (松尾芭蕉)
	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和歌に詠まれた感情・情景を読み取り、自分のイメージと言葉で書き換える。 	「古典の和歌を現代の言葉で置き換える」 (俵万智)
	説話と随筆	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説話を読み、話の面白さを理解する。 ・ 口語訳の力を身につける。 ・ 助動詞について理解し、口語訳にいかす。 	「十訓抄」 「古本説話集」 「徒然草」 (兼好法師)
	物語と日記	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌物語を読んで、歌物語における和歌の役割を理解する。 ・ 日記を読んで、文章の表現上の特徴について理解する。 ・ 助動詞、助詞について理解し、口語訳に生かす。 	「伊勢物語」 「土佐日記」 (紀貫之)

三 学 期	評論（三）	<ul style="list-style-type: none"> ・評論的な随想の読解方法を習得する。 ・評論文の読解を通して、新しい知識を得ることのおもしろさを味わう。 	「人間はどこまで動物か」（日高敏隆） 「イースター島にはなぜ森がないのか」 （鷺谷いづみ）
	漢詩の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・唐詩を読み味わい、中国古典文学への関心を高める。 ・漢詩のきまりについて理解する。 	「唐詩の世界」 「漢詩のきまり」
	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩とその訳詩について関心をもち、読み比べる。 ・漢和辞典・副教材『最新国語便覧』・図書館資料やインターネットを主体的に利用する。 	「漢詩と訳詩を読み比べる」
	短歌と俳句	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代俳句の代表的な作品を味わう。 ・日本語への理解を深め、想像力や感受性を豊かにする。 	「手鞠歌」（高浜虚子 ほか）
	学年末テスト		
	言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題に関心をもち、自分の意見を伝える文章を書く。 ・新聞に親しむ。 ・投書を書く際の留意点について注意して書く。 	「投書を書こう」 自分の意見を 400 字程度にまとめ、新聞に投書する。